

<臨床研究一覧>

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究期間	2020年7月-2030年7月
研究内容	乳癌の患者さんは術後再発予防目的に薬物療法を受けます。各薬物療法は肥満、高脂血症、糖尿病等の生活習慣病の一因となり、心血管障害や脂肪性肝疾患の発症が増加します。さらに肥満は乳癌の再発リスクを上昇させます。乳癌術後の患者さんに運動療法と食事療法を施行することにより、乳癌の再発率、生活習慣病、心肺機能、リンパ浮腫/可動域、生活の質などが改善できるか検証し、患者さんが継続的に食事療法と運動療法を施行できるようにサポートしていきます。 興味のある方は、研究責任者までご連絡ください。

オプアウトの対象となっている過去の臨床研究は下記の通りです。

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	術前腋窩リンパ節の評価
研究期間	2012年7月-2018年6月
研究内容	乳癌の術前診断でリンパ節転移陰性と診断された症例に対してはセンチネルリンパ節生検を施行し、リンパ節転移陰性なら腋窩郭清を省略する治療が標準となっています。超音波検査、FDG-PET 検査を組み合わせることにより術前の腋窩リンパ節転移診断の精度を高められたかを振り返って検討します。特に当院では PET 検査を積極的におこなっており、術前診断にどのように役立てるかを検討します。
研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	CDK4/6 阻害薬の治療成績
研究期間	2017年12月-2020年11月
研究内容	ホルモン受容体陽性 HER2 陰性転移再発乳癌に対して1次療法として内分泌療法に加えて CDK4/6 阻害薬の併用が強く推奨されています。CDK4/6 阻害薬の併用により内臓転移を有する方でも内分泌療法から治療を開始できる患者さんが増えています。CDK4/6 阻害薬を使用した患者さんの詳細を検討します。

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	StageIV乳癌症例に対する局所治療の意義
研究期間	2012年4-2020年10月
研究内容	遠隔転移のある乳癌患者さんの治療は全身薬物治療が主に行われ、原発巣に対する局所治療の効果は限定的です。しかし原発巣が増大し皮膚浸潤を起こし潰瘍を形成すると、出血や悪臭のため生活の質が著しく低下します。乳癌診療ガイドライン 2018年版において、StageIV乳癌に対する予後の改善を期待して原発巣切除を行わないことが弱く推奨されています。今回当院で StageIV乳癌の原発巣に対する局所治療を行った症例について検討します。

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	当院における乳癌地域連携診療とパスの運用状況
研究期間	2012年1月-2020年12月
研究内容	当院では乳癌術後の患者さんに対し専門治療期間である当院と地域の医療機関(かかりつけ医)と診療協力をし、きめ細やかなケアを行っていく地域連携パスを導入しています。当院では有症状のケア、定期検診を行い、地域の医療機関では乳癌術後の薬物療法や生活習慣病、がん検診等を担っていただき、診療連携を行っています。

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	高齢者乳癌に対する周術期治療と経過観察について
研究期間	2012年11月-2021年10月
研究内容	癌は健康長寿にかかる最大の課題とされ、がん対策推進基本計画では高齢者がんの医療の在り方の検討と指針の策定が求められていますが、乳癌について高齢者の適切な治療選択に関わるエビデンスは少ないのが現状です。当院で手術加療を行った高齢者乳癌症例について、周術期治療と経過観察方法について研究しています。

研究責任者	阿左見祐介
研究課題	初発IV期乳癌骨転移に対する放射線治療の実際
研究期間	2015年1月-2020年1月
研究内容	当院で診断、加療を受けた乳癌初発骨転移症例に対し、緩和治療、放射線治療をどのように行っていくのが良いか、研究しています。

研究責任者	阿左見祐介
研究課題	同側鎖骨上リンパ節転移 N3c 症例への PMRT
研究期間	2017 年 6 月から 2022 年 8 月
研究内容	乳癌の鎖骨上リンパ節転移症例は化学療法、放射線療法、手術療法を組み合わせた集学的治療が行われますが、根治が難しく、再発率は高いです。当院では放射線治療を工夫し、根治を狙った治療を行っています。通常の周術期放射線治療に加えて、鎖骨上リンパ節へ追加照射を行った症例について症例について検討します。

研究責任者	阿左見亜矢佳
研究課題	HER2 陽性乳癌の術前評価と治療方針について
研究期間	2017 年 1 月から 2022 年 11 月
研究内容	HER2 陽性乳癌は薬物療法に関する感受性が高く、周術期療法は重要です。HER2 陽性乳癌に対して術前診断及び周術期治療について検討します。

研究責任者	白井祝子
研究課題	当院における皮膚潰瘍を伴う進行乳がん患者の集学的治療のための多職種の間わり
研究内容	皮膚潰瘍を伴う進行乳癌は疼痛や出血による生活への影響を伴います。またリンパ節転移や遠隔転移を伴い、迅速な診断と治療開始を必要とします。当院では皮膚潰瘍を伴う進行乳癌患者への集学的治療のため、多職種が迅速に関わる体制を医師、看護師を中心に構築しました。患者さんとの間わりについて振り返り、その効果と課題について検討します。

研究責任者	渡邊絵里子
研究課題	乳癌周術期化学療法における予約外受診の検討
研究内容	早期乳癌は周術期化学療法の進歩により、再発率が大きく改善されており、周術期化学療法を完遂するために有害事象における対応が大切です。患者さんが治療と生活を共存し、治療完遂を目指すためには、有害事象に対する支持療法の充実や患者自身のセルフマネジメントが重要です。化学療法を施行している患者に対し、化学療法施行中の予約外受診や電話問い合わせについて振り返り、今後どのようなサポート体制が必要となるか現状と課題について検討します。